きくがわ 広報 Public Relations

菊川病院は一番身近な「救世主」です。

西富田の栗原勝男さん・幸江さん夫妻（16ページに登場）

菊川のカルテ

Special Edition

March
2009
Vol.90
3

市長の抱負

住んでよかった 住みたくなる まちづくりに向かって

菊川市の誕生から「市政のかじ取り役」を担ってきた太田市長による２期目の市政運営がスタートしました。
ここでは、今後４年間のまちづくりを進めていくうえでの抱負を聞きました。

問合せ　企画政策課秘書情報係（☎35-0924）

新たな４年間のスタート

今、わが国は、これまでに経験したことのない経済状況に陥り、私たちの地域経済も大きな影響を受けています。

市の財政状況も、法人市民税を中心に歳入の落込みが予想され、大変厳しい状況です。しかし、こうした中でも「持続可能な自立した都市」に成長するための歩みを止めるわけにはいきません。

新たな4年間のスタートにあたり、市長という職の重さにあらためて身の引き締まる思いをしています。

元気！　菊川市

平成17年1月の市長就任以来、「選択と集中」のキーワードのもと、市民満足度を重視したまちづくりを進めてまいりました。

このことは、これからも何ら変わるものではありませんが、2期目につきましては、さらに「元気！　菊川市」をスローガンに菊川市の、そして市民の皆さんの元気につながる施策を推進していきたいと考えています。

元気につながる取り組みを

そのために、特に私がこれからの重点項目として掲げているものが、次の7つです。

▽市民・地域との協働によるまちづくり
▽行財政改革の推進
▽子育て支援・教育環境の整備
▽よりよい環境づくり
▽地域経済・産業の活性化
▽主要地方道掛川浜岡線バイパスの整備
▽市立総合病院の安定運営

これらの項目を着実に推進し、「住んでよかった、住みたくなる」まちづくりの実現を目指してまいります。

そのための主な施策は

これら7つの取り組みについて、主な施策を紹介します。

「市民・地域との協働によるまちづくり」では、現在、小笠東地区と小笠南地区に建設中のコミュニティセンターが間もなく完成します。

来年度、嶺田地区にも建設を進め、市内全11地区に13ヵ所のコミュニティセンターが整備されることにより、コミュニティ協議会が中心となった地域づくりの基盤ができあがります。

併せて、地域づくりに活用いただく交付金制度をスタートさせるなど、ソフト面からも地域づくりをサポートしてまいります。

持続可能な自治体づくりには欠かせない**「行財政改革の推進」**には、不断の努力が必要です。新たな行政評価の仕組みを取り入れるなど、改革を一段と進めてまいります。

安心して子育てができ、未来を担う子どもたちが安全に生活を送れるよう**「子育て支援・教育環境の整備」**を進めます。

「元気！菊川市」をスローガンに
2期目の市政運営を
全力で進めてまいります

太田順一（おおたじゅんいち）
昭和25年４月28日生まれ。國學院大學経済学部卒。会社経営、旧菊川町議、菊川町長を経て平成17年初代菊川市長に就任。趣味は映画鑑賞、旅行。座右の銘は「継続は力なり」

そのため、私立保育園の園舎耐震補強事業の支援を継続するとともに、計画的に小中学校の施設整備を進めてまいります。

併せて、学童保育のさらなる充実を図るとともに、入院時の医療費助成を中学３年生まで拡充し、保護者の医療費負担の軽減を図ります。

また、循環型社会の構築に向け、市民の皆さんにマイバッグ運動などで積極的に協力いただいている**「よりよい環境づくり」**については、環境基本計画を策定し、総合的かつ計画的に環境施策を進めてまいります。

「地域経済・産業の活性化」では、富士山静岡空港の開港を機に、交流人口の増加やビジネスチャンスの拡大が予想されます。

この機をとらえ、企業誘致や雇用の創出、菊川茶をはじめとした農産物、工業製品の販路拡大につなげる取り組みを進めてまいります。

市の一体性と市民の融和に向け、最重点事業として取り組んでまいりました**「主要地方道掛川浜岡線バイパスの整備」**は引き続き、県と市とが共同で道路築造を進めます。

「市立総合病院の安定運営」はすべての市民の願いです。これまで以上に市民の健康維持・増進の中心的役割を担い、地域医療全体の質の向上を目指してまいります。

市民の皆さまには、地域の病院を守り育てるためのご理解・ご協力をお願いいたします。

菊川市誕生５周年を迎えて

さて、来年度は「菊川市誕生５周年」の節目の年を迎えます。これを記念し、合併後のまちづくりにご尽力いただいた皆さんを表彰し、その栄誉を永くたたえてまいります。

また、市民の皆さんはもとより、菊川市出身の皆さんがより「郷土愛」「故郷への誇り」をもっていただくため、偉大な先人の遺徳を広く紹介してまいります。

このほか昨年、県から紹介を受けました中国浙江省紹興県との交流を深め、経済、文化、芸術など国を超えた交流を行い、相互理解、相互発展の推進、国際化意識の熟成を図ってまいります。

市民の皆さんと創る素晴らしい菊川市

「地方の時代」といわれる中、これまで以上に自主・自立を基本とした行政運営が求められています。

このような認識のもと、今申し上げました元気につながる取り組みを重視しながら、第１次総合計画で掲げた菊川市の将来像「みどり次世代　～人と緑・産業が未来を育むまち」の実現に向かって歩んでまいります。

そして、「共に汗をかくまちづくり」の理念のもと、市民の皆さんと共に「住んでよかった菊川市」を創りあげていこうと決意を新たにしています。

菊川のカルテ

Special Edition

命の砦「菊川市立総合病院」がSOS 守れるか、菊川の医療。

*1「吹き抜けのある新築病院から医師がいなくなる――」という法則がある。今、全国の公立病院の多くが深刻な医師不足に悩んでいる。医師がいなくなった病院はただの「箱」。まちに残るのは建物に費やした莫大な借金。病院の運営状況はまちの「健康」と「財政」、つまり自治体の「命」を左右する。菊川市民の命の砦（とりで）「菊川市立総合病院」もSOSを発信している。わたしたちは菊川の医療を守れるのか。

●問い合わせ　菊川市立総合病院経営企画室（☎35－2137）

全国で消えゆく公立病院

全国各地で市立・町立などの公立病院が消えつつある。ここ5年間で地方自治体（県・市町村）の運営する病院は85も減少。逆に民間（医療法人）病院は33増えている。へき地医療の拠点としての役割をはじめ、産科、小児科や救急など採算のとりにくい診療科目を担う公立病院は、住民にとって「命の砦」だ。わたしたちの暮らしには絶対欠かせない。

しかし今、命の砦の土台は「崩壊寸前」。テレビや新聞などでは、存続の危機に立たされた公立病院のニュースが連日のように報道されている。

止まらない急速な経営悪化

不採算になりやすい診療科目を担う公立病院は、赤字経営の危険と常に隣り合わせだ。

ここ数年で多くの公立病院

＊1_全国の公立病院の経営に詳しい城西大学の伊関友伸准教授（13ページに登場）が唱える法則　きれいで豪華な病院には、本来なら地域のかかりつけ医の診察を受けるべき軽い症状の患者まで外来にやってくる。医師は建物の借金を返すために多くの患者を診てヘトヘトになり退職するという考え。

＊2_新臨床研修制度　新人医師の研修制度。それまで必ず出身大学医学部で研修をしなければならなかったが、本制度により任意の医療機関で研修ができるようになった。

＊3_診療報酬の改訂　診療報酬は、病院などの保険医療機関が行った医療サービスの対価として受け取る報酬。診療や治療ごとに点数が決められ1点10円で計算される。改定は2年ごとに行われ、16年は国民医療費との対比でマイナス1%、18年はマイナス3.16%と過去最大の下げ幅となり、病院経営に大きな影響を及ぼしている。

は経営状態が急速に悪化し、深刻な経営難に悩まされている。主な原因は▽医師不足▽診療報酬の改定▽地方財政の悪化―など。

中でも医師不足は深刻だ。原因の一つは平成16年に導入された「*2新臨床研修制度」。同制度により大学病院は人手不足に陥り、地方の公立病院などに派遣していた医師を呼び戻さなければならなくなった。医師を補充できない公立病院では、残った医師の負担が倍増。過酷な勤務に耐えられず医師が退職するという事態が全国で相次いだ。

診療報酬のマイナス改定も大きな問題だ。財政難にあえぐ地方自治体は、赤字運営の病院を支えきれず、多くの病院が存続の危機に立たされている。

菊川市は深刻な医療過疎地

医師不足の問題は、ここ菊川市、中東遠地域においても例外ではない。

県の人口10万人当たりの医師数はおよそ１７０人。47都道府県中39位と下位に位置する。中東遠地域、菊川市はさらに低く、全国平均の半分程度。最低レベルといえる（表1）。

病床（ベッド）数、病床機能も全国平均をはるかに下回る。菊川市の医療過疎は深刻だ。

地域を守り続ける菊川病院

菊川病院は、医療過疎地域である本市唯一の病院。

昭和25年4月、ベッド数20床の「国民健康保険菊水病院」として開院した。36年4月には小笠町も加わり、「共立菊川病院」に改称。平成10年3月、現在地に新築移転し、一般科２１０床、精神科60床、計２７０床の菊川市立総合病院が誕生した。診療科目は内科、外科や小児科など全11科。前身の菊川病院時代から59年間にわたって、菊川市の医療を支え、市民の健康と安全を守り続けている。

菊川病院に黄色信号が点灯

多くの公立病院同様に、菊川病院も赤字経営を強いられている。

病院事業会計の収支は、16年度まで黒字を維持してきたが、17年度から赤字に転換。19年度は4億6千万円の赤字となった。

収支悪化の原因は、安全強化など医療の質を高めるために投じた費用の増加。市の財政も厳しい中、一般会計からの繰入金の減少も、その一因になっている（図1）。

岐路に立たされる「命の砦」

菊川病院の常勤医は15年に比べ2人減。病院関係者の努力で、研修制度の影響を最低限に抑えてはいるが、残った医師の負担は確実に増している。

現在は医療スタッフの頑張りで、急激な収支の悪化を食い止めているが、その先に見えているのは決して明るいものではない。

財政問題と医師不足。二つの危機と直面する市立総合病院。「命の砦」は、岐路に立たされている。

菊川市立総合病院

■**所在地**　〒439-0022
静岡県菊川市東横地 1632
TEL 0537-35-2135（代表）
FAX 0537-35-4484

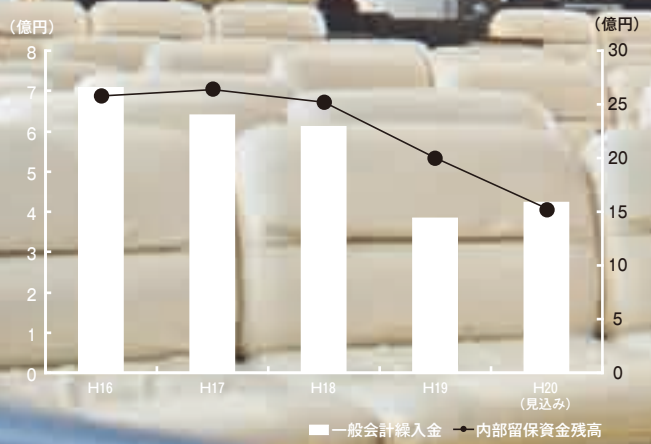
■**診療科目**　11 科（内科、小児科、外科、 整形外科、脳神経外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、 精神科）

■**病床数**　270 床（一般科 210 床、精神科 60 床）
救急医療 二次救急告示病院（専用病床2床）

表１　医師数と病床数

区分	人口 10 万人当たりの病院・病床数				人口 10 万人当たりの医師数(人)
	一般病床	精神病床	療養病床	総数	
全　国	713.0	275.8	274.1	1,273.1	206.3
静岡県	589.8	190.6	299.5	1,086.3	170.0
中東遠	433.0	209.1	208.6	852.0	107.3
菊川市	421.9	120.5	—	542.4	100.6

図１　一般会計繰入金と病院内部留保資金残高の推移



Special Edition
菊川のカルテ
病院のSOS
Chapter 1

外来から病棟回診、当直、救急、手術まで
勤務医の32時間

菊川市民の命を守る医師が危ない。激務といわれる医師の実際の仕事は想像以上だ。わが身を顧みず命を守る勤務医の32時間に密着した。

当直勤務の
久保田晃医師
●小児科

▼午前8時15分　勤務開始

「わたしは平成6年から菊川病院に勤務しています。もう一番の古株になってしまいました」と笑う久保田晃医師。小児科医として14年間、子どもたちの健康を守ってきた。

午前中は初診外来。看護師と打ち合わせを済ますと、さっそく外来患者の診察を開始。

最初の患者は、母親に連れられた女児。「前の日にせきがひどくて気になったから」と言う母親の説明を聞いた久保田医師は慎重に聴診器を当てる。のどの奥も調べた。そして「特に問題ないでしょう。大丈夫ですよ」とやさしく語りかける。

続いて訪れたのは小学生の男児。インフルエンザが疑われる症状のた

①のどの痛みを訴える女児を診察する②病棟での朝ミーティング③受け付け開始と同時に大勢の患者が来院する④待合室はたちまち満員に⑤入院患者の容態を確認する大貫医師⑥診療科目は 11 科目

通常勤務の
大貫義則医師
●外科

▼午前8時15分　勤務開始

副院長で診療部長も務める大貫義則医師。外科医だ。

午前7時30分に登院。さっそく白衣に着替えて病棟へ。入院患者の様子を確認して回る。

「具合はどう。食欲はありますか」「だいぶよくなってきましたね」

限られた時間の中でも笑顔で患者に話しかけ、コミュニケーションを深めている。

8時10分から朝ミーティング。打ち合わせが済むと診察室へ。外来患者は一日平均二十数人。待ち時間を減らして一人でも多くの人を診察するために、看護師や検査部門と連携は欠かせない。

外来の受け付けは午前11時までだ

平成19年度に救急車で菊川病院に搬送された救急患者は1,154人。うち483人（41.9%）が入院している。

め、感染の有無を検査した。

午後は予約患者の外来診察。曜日によっては予防接種や健診なども行う。風邪が流行する時期には、百人を超す患者を診ることもある。

その間、会議にも出席。夕方からは病棟に向かい、入院患者の様子を診て回る。

▼午後5時　当直開始

当直の時間になった。1階の救急措置室に移動する。

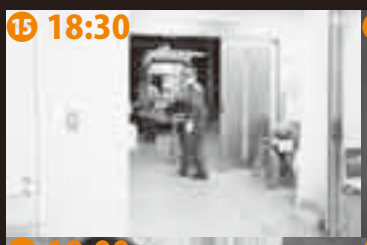
当直は医師1人、看護師2人の3人体制。平日の夜間や休日などの時間外診療は、この限られた人員で対応する。

午後6時30分、突然鳴り響く電話の音に緊張が走る。救急車からの受け入れ要請だ。高血圧で薬が欠かせないという高齢者が、鼻からの出血を訴え救急車で搬送されてきた。まだ院内に残っていた耳鼻咽喉科の医師が処置。入院して様子を見ることになり、看護師が車いすで病室へ運んだ。

患者が途絶えることはない。今度は胸の痛みを訴える男性が駆け込んできた。「腕もしびれる」と言う。看護師が素早く心電図を調べる。

検査中にも電話は鳴り響く。が、対応できない。たまたま立ち寄った看護師が電話に応対、事なきを得た。

「患者さんが続けて来ると手いっぱい。重傷者が搬送されたら応援を頼まなければとても回りません」と看護師は話す。


⑮ 18:30

⑫ 17:00

⑩ 15:00

⑦ 16:00

⑯ 19:00

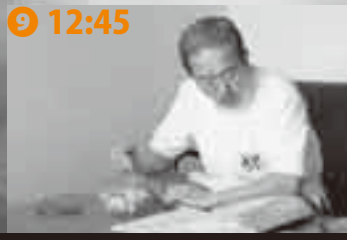
⑬ 19:00

⑪ 16:30

⑰ 18:30

⑭ 14:00

⑧ 13:00


⑨ 12:45

⑦夕方、入院患者の容態を確認。保護者に病状を説明する久保田医師⑧手術室⑨あわただしく昼食をとる大貫医師⑩忙しい合間をぬって会議に出席⑪ナースステーションで看護師に指示を出す久保田医師⑫救急入口の光は命の明かりだ⑬レントゲン写真を見ながら研究する若手医師⑭ここ数年、手術の件数は増え続けている⑮この日最初の救急患者が搬送された⑯検査数値から容態を把握する看護師⑰入院患者を診察する大貫医師

が、正午過ぎまで受け付けを済ませた患者が列をつくる。午前中の外来が終わったのは12時半過ぎ。休憩時間はほとんどない。

午後から手術が行われる。

外来を終えた大貫医師が大急ぎで執務室に戻ってくる。手術の開始時刻は刻一刻と迫る。患者のカルテや手術に関する資料を確認しながらわずかな時間で昼食をとる。

この日のメニューはお手製のキムチ丼。「普段はおにぎりが多いかな。時間があるときはカップ麺。3分も待てないときの方が多いかも」と笑う。

手術を行う医師は最低3人。看護師2人と合わせ、5人体制で臨む。外科では、19年に355件の手術を行った。手術の種類によって異なるが、大掛かりなものは1日1件、軽いものなら2、3件こなす。

大きな手術は6、7時間にも及ぶ。その間、医師は立ったまま。集中力を維持しながらの作業は並大抵のことではない。

▼午後5時

手術は無事終了した。しかし、医師の休憩時間はない。

さっそく手術に関する書類を作成。その後、病棟に向かい、入院患者のカルテを確認する。看護師の報告に対し、的確な指示を出す。そして回診する。

診察終了後は、その日手術した患者の容態を確認する。レントゲン写真を見ながら若手医師を指導、ようやく病棟を後にする。

▼午後7時30分　救急外来

胸が痛いと訴える男児が救急車で搬送される。

検査の結果、異常は見つからなかった。久保田医師は、保護者に診察結果を丁寧に説明する。

患者が途切れたのは午後8時半過ぎ。久保田医師は「当直は月に1、2回。加えて夜の待機もあります。菊川病院では、まだ当直中に倒れた医師はいませんが、本当にみんなよく頑張っていると思います」と当直の過酷さをもらす。

▼午前8時15分　当直業務終了

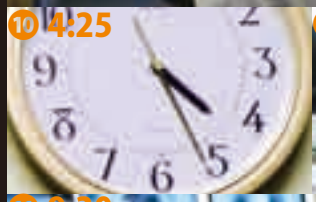
この日の夜だけで、受け付けた患者は15人。平均的な数だという。「多い日には三十人以上になることもある」というから驚きだ。結局、久保田医師は仮眠さえもとれなかった。休む間もなく通常勤務へ就く。

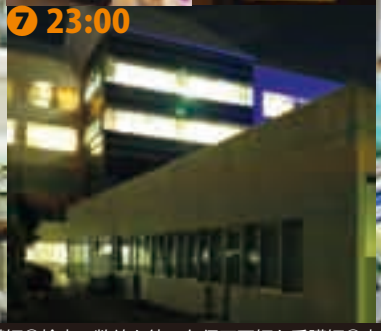
「意外と当直あけの日は大丈夫なんです。でも勤務を終えて家に着いたとたんにガクッときます。朝起きたとき、出勤するのがいやになってしまいます」と苦笑いする。

この日の外来診察は、もう一人の小児科医、関井克行医師が行う。久保田医師は入院患者の診察に回る。

「医師が一人だけの科は、休むわけにはいきません。本当に大変だと思います」

午後は、たまっていた書類を整理。午後5時15分、32時間の勤務が終了した。





①胸の痛みを訴える子どもが救急車で搬送される②素早く心電図をとる看護師③検査の数値を待つ久保田医師と看護師④夜、資料を読んで勉強する大貫医師⑤この日救急車で搬送された患者は3人だった⑥救急患者を手当している間にも電話は鳴り響く⑦暗闇に浮かび上がる病院。24時間市民の命を守り続ける⑧32時間勤務も後半。書類整理を行う久保田医師⑨救急患者の家族に診察結果を説明する久保田医師⑩最後の患者を診察したとき、時計の針は午前4時25分を指していた⑪外来患者の診察を行う大貫医師

▼午後9時　研究時間

執務室に戻った大貫医師は机に向かうと、医療に関する資料を引っ張り出した。

「医師は常に学ばなければなりません。さまざまな図書を読んだり、学会に参加したりして、最新の医学や医療を勉強しています。研さんを積むことが、最新で最良の治療につながるのです」ときっぱり。さらに「菊川病院の活動を学会で発表するために、資料をまとめなければならないのですが、なかなか時間がなくて…」とも。

この日、大貫医師が執務室を出たのは午後11時過ぎ。「わたしは単身赴任。晩ご飯は冷蔵庫のものを適当に。医師だけど、栄養バランスは良くないなあ」と苦笑い。深夜の病院を後にした。

やっと帰宅した大貫医師だが、入院患者の容態や救急外来の状況によっては、夜中でも呼び出されることが少なくない。気が休まることはない。

▼午前8時30分　外来診療

昨夜は、呼び出されることがなく、いつも通りに出勤した大貫医師。さっそく診察室に入り、患者と向き合い、診察を行う。

午後は手術を執刀。手術を終えて間もなく午後5時15分を迎えたが、次の仕事にとりかかる。今夜もまだまだ帰れない。

看護師の思い　Interview　医師の考え

医師・看護師を守る方策が必要

主任看護師
高柳弥生さん
Takayanagi Yayoi

看護師の業務は年々煩雑化して、労働環境は厳しくなっています。高齢の患者さんが増えたことで、日常生活動作への援助も増し、安全確保のための確認作業も複数で行っています。以前と比べ、処理する書類も多いですね。医師の労働環境は、はたから見てもハードです。状況によっては40時間連続勤務なんてこともあります。医師や看護師を守るための方策が必要だと思います。

背水の陣の当直体制

副院長(救急診療担当)
二見　肇医師
Futami Hajime

他の病院では、40歳以上になると当直を免除されることが多いのですが、ここではそんな余裕はありません。院長以外のほぼすべての医師が当直を務め、みんなでカバーしあっています。疲労が限界に達した医師が一人、二人と倒れたら、この体制は維持できません。コンビニ受診を控えるなど市民の皆さんの協力が不可欠です。当直医師の負担を軽くしないと菊川の医療は崩壊してしまいます。

32時間以上も眠れない医師がいることを知ってください

医師の過酷な労働実態を象徴する「32時間勤務」。当直でない日も、状況しだいでは呼び出される。心まで休まる「本当の意味での休日はほとんどない」のが現状だ。

そんな勤務の過酷さを知る人はどれくらいいるだろうか。医師は機械でもなければロボットでもない。わたしたちと同じ人間だ。当然、疲れを癒やす時間がなければ、倒れてしまう。

菊川病院は限界に達している医師の負担を軽減するため、*1内科診療の抑制を呼びかけている。4月からは「時間外加算料金」も導入する予定だ。

救急医療体制が4月から変更 軽症患者は急患診療室へ

現在、月曜から金曜の午後5時から10時と、土曜の正午から午後5時までの一次救急診療は、輪番制による在宅当番医が診療している。4月からは、小笠医師会掛川医療センター急患診療室（掛川市御所原9―2 ☎61―1299）が開設され、*2一次救急患者の診察を行う。

平日夜間や休日の昼間など、入院や手術を必要としない程度の一次救急は、急患診療室で受診するのがルールだ。過酷な勤務の医師を守るために、わたしたちができることは、患者のマナーと受診のルールを守ることである。

菊川市立総合病院が平日外来を勧める3つの理由

本来診るべき患者を診察できない

菊川病院は「二次救急医療機関」として24時間365日の救急体制をとっている。二次救急とは、緊急の治療や入院の必要な重症患者を対象とした救急医療。「昼間は仕事があって病院に行けない」「待ち時間が少なくてすむ」など、自分の都合で行動する軽症患者が殺到すると、重症患者の診察に支障をきたしてしまうことになる。

診療体制が限られる

菊川病院の当直医師は1人。医師によって専門科も違い、検査体制も万全ではないため、必ずしも患者が望む診察ができるとは限らない。診察体制が整っている平日の診療時間内に受診することが、患者にとっても望ましい。

診療費用が割り増し

4月から菊川病院では時間外加算料金を全額自己負担（これまでは3割または1割）とする。換算料金は時間帯によって異なるが、深夜では4,800円。

※緊急の治療が必要な人、6歳以下の子どもは対象外

住民の願い　Interview　開業医の声

わたしたちもルールを守ろう

菊川病院に通院する
中山美紀さん
Nakayama Miki

出産のために菊川病院に通っています。現在、産婦人科の常勤医師は2人だけです。出産を控えている人は、わたしのほかにもたくさんいます。お産が重なった時は、医師もわたしたちも大変だなと感じています。小児科の医師を増員して、より高度な治療ができるようになればいいですね。そのためには利用するわたしたちもルールを守って医師を支えていかなければならないと思っています。

軽傷の患者さんは急患診療室に

篠原医院
篠原孝臣医師
Shinohara Takaomi

4月から一次救急診療体制が変わります。開業医の輪番制から掛川医療センター急患診療室での診療に一元化されます。従来の輪番制と違って、診療場所が変わることがなくなるため、遠くても利用しやすくなります。軽症の患者さんは急患診療室を利用することが望ましいですね。わたしたち開業医も、菊川病院との役割分担しながら、地域全体の医療を高められるよう努力します。

＊1、2　詳しくは折り込みチラシを見てください

Voice 開業医

健全な病院運営には元気な医師が欠かせない

以前、８年間にわたり菊川病院に勤務していました。病院の勤務医は救急に対応しなければならず大変です。当直していると何でも診ざるを得ませんし、当直でない日であっても、夜中に呼び出されることもあります。今は近隣の病院も大変な状況です。菊川病院の医師の皆さんが疲弊してしまうのが怖いです。

杉原脳神経外科クリニック
杉原央一医師
Sugihara Eiichi

生き残るために

菊川市立総合病院の中期計画

疲弊する医療現場、悪化する経営状態。この問題を、菊川病院はどうやって乗り切るのか。その答えが「中期計画」。菊川市立総合病院が、これからも地域医療の砦として生き残っていくための中期計画を紹介する。

明日の医療を守るための指針

近年、厳しい財政状況の中、公立病院を支える余力のない地方自治体が急増している。地域医療の核として、その役割を果たす公立病院の経営破たんは、地域医療の崩壊を意味する。

総務省はこうした事態を防ぐため、19年に「公立病院ガイドライン」を公表した。地方自治体は①近隣病院との医療内容の棲み分け②自治体からの補助を最小限に抑える③効率的な経営形態への移行―の３つの視点から改革プランを策定するよう、国から求められたのである。

菊川病院の中期計画を策定

今後も菊川病院が地域医療の核として、その役割を維持していくためには、診療体制の一層の充実と中・長期的な視点での経営計画の策定が必要だ。

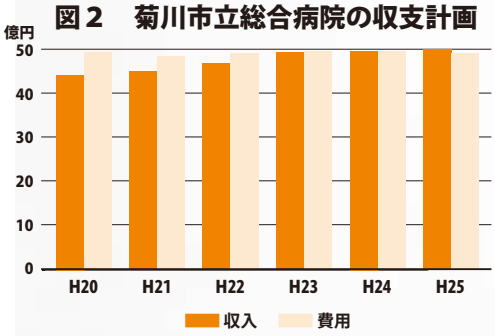
菊川病院は、市民や有識者からなる中期計画策定協議会（全３回）と内部委員会である中期計画策定委員会（全７回）での協議を経て、本年度内に中期計画を策定する。

経営改善目指す基本方針

計画の期間は、21年度から25年度までの５年間。基本方針として、①地域連携

中長期的な視点から健全な病院運営を考える そのために計画が必要

図２　菊川市立総合病院の収支計画



Voice 家族

総合病院は大切な存在
山田及理子さん

32歳　岳洋

Yamada Noriko

18年前にペルーから移住しました。子どもが病気になったときは、できるだけ近くのクリニックで診てもらっています。いざというときには市内に総合病院があるので、安心できます。菊川病院はわたしたち外国人市民にとっても大切な存在です。

Voice 患者

リハビリ病棟に期待
赤堀　満さん

57歳　赤土下

Akahori Mitsuru

肩のけんを痛め入院しています。医師も看護師もとても親切で満足しています。現在の入院患者には、長期間のリハビリが必要な人も多いと思います。退院後の生活が不便にならないためにも、今度できるリハビリテーション病棟には、とても期待しています。

推進による地域満足度の向上②病院機能強化による安心・安全な医療の提供③意識改革と継続的な経営改善の実行―の3つを掲げ、取り組んでいく。

■地域での連携を推進

国の医療改革に伴い「病院で完結する医療」から「地域で完結する医療」への転換を図る。そのために、各病院の機能を明確化することが迫られている。

例えば菊川病院だけで担えない医療は、近隣病院や診療所との連携を強化して対応する。また保健予防から在宅介護まで、行政・福祉施設との包括的なケアを進める。すき間のないサービスの提供によって、地域における医療の満足度向上を図る。

■患者サービスの向上

外来の待ち時間短縮や職員の接遇面の改善など課題は多い。そのため、定期的に患者の満足度調査を実施するなど、患者本位のサービス向上を目指すことが必要だ。

広報誌やホームページでの情報発信を充実させ、病院の内容や病気についての知識や予防法などの情報提供も行う予定だ。

■安全で良質な医療実現

近年、全国各地で起こっている医療事故などを未然に防ぐための体制を強化する。安全で良質な医療を提供するために、院内感染などを未然に防止する対策を充実させる。

■病院機能の維持・充実

現在の診療機能の維持・充実を図りながら、地域に不足している回復期リハビリテーション病棟を新設する。高齢者を主とした患者は入院治療後、運動機能を低下させることが多い。手厚いリハビリテーションによってスムーズな在宅復帰を支援する中間施設としての機能を担う。

健診機能を充実させることで生活習慣病を予防するなど、予防医療による健康増進も欠かせない。

産婦人科の助産師外来や整形外科のスポーツ外来など、特色のある診療サービスも強化していく。

■人材育成・確保の強化

研修医のプログラムを充実し、看護師の採用体制を強化する。ねらいは医師や看護師が集まる病院だ。

現在勤務している医療スタッフが気持ちよく勤められることも重要。医師の研修・研究環境の整備や看護師の資格取得支援体制の充実など、労働環境の改善を図っていく。

■経営改善と意識改革

経営分析を強化して、根拠に基づいた業務改善を実施する。中期計画を推進するために大切なのは職員の意識。組織の再構築を進めるとともに院内集会を開催し、共通の意識と目標を持って取り組んでいく。

■23年度の黒字化目指す

市の一般会計から適正な繰り入れを受けながら目指すのは、23年度の単年度黒字（図2）。そのために求められるのは具体的な改善計画だ。

民間の経営手法や人材を導入し、経営企画部門の強化を図る。収益、費用にそれぞれ現実的な改善目標を設定し、医業収支の改善を図る。自治体病院にありがちな「赤字体質」からの脱却を目指す。

医療機器購入などの投資計画は、内部留保資金の残高を考慮しながら費用対効果や必要性を十分検討した上で、見直していく。

Voice 副院長

今なら まだ間に合う 菊川の医療再生

菊川市立総合病院 ●副院長（経営担当）
松本有司医師

Matsumoto Yuji

「将来も存続すること」と「市民にとって大切な存在であり続けること」の両立が菊川病院に求められています。

この先、病院が存続できたとしても、市民が利用しなければ存在する意味がありません。不採算部門であっても、市民に必要とされる診療科目は閉鎖しない方向で考えています。

病院の経営環境が厳しい今、現状の経営形態で生き残っていくことは難しいでしょう。中期計画を策定したのは、「今なら、まだ間に合う」からです。手遅れになる前にアクションを起こしました。

中期計画をみんなで達成し、菊川の医療を市民と共に守っていくことが、わたしたちの使命です。

村田英之

PLOFILE　むらた・ひでゆき
菊川市立総合病院院長
1954年新潟県生まれ。1980年浜松医大卒業。同年、浜松医大整形学科学教室に入局。国立浜松病院、藤枝市立志太総合病院などを経て、1995年浜松医大整形学科講師、2006年現職。

市民・行政・医療者の輪を築き 医師を頼む地域から医師が来たくなる地域へ

医師不足と経営難

菊川病院が現在抱える大きな問題は二つ。一つは医師・看護師不足。もう一つは経営難です。

医師は「3人−1人＝2人」ではなく、「0」になってしまう世界です。ある科で一人の医師が辞めると、負担が増した残りの医師二人もやめてしまいます。そして一つの科がなくなると、その科と関連のある科も患者の受け入れや治療を制限しなければならなくなります。このように、一人の医師が辞めると、ドミノ倒しのように大きな影響を受けてしまうのが病院の実態です。

現在、全国の自治体病院の約9割が赤字です。個々の経営努力が足りないだけでなく、構造的な問題が大きく関与しています。診療報酬が上がらない一方で、医療への要求は高い。要するに、「お金をかけずに質を上げなさい」という流れです。それは無理。だから多くの病院が赤字に陥ってしまうのです。

医師の使命感も限界

正直、地方の自治体病院への勤務は人気がありません。専門外の患者を診たり、当直をしたりハード。看護師も同じです。

でも、なぜそれで今までやってこられたかというと、地域のため、住民のために頑張ろうという「使命感」があったから。それも限界に達してきています。

忙しいのには割と頑張れます。一晩寝ないで重症者を診ることはできます。でも、がっかりするのは、足がかゆいなどの軽症で夜中に来る患者。さすがにやる気がなえてしまいます。

市民・行政・医療者の輪を築く

菊川病院がこれからも存続していくためには、「市民・行政・医療者の輪を築く」ことが大切です。三者は本来、協力し合わなければならない関係にありますが、現実にはなかなかいい関係を築くことができません。本当に医療を必要とする患者が、必要な時に、医療を受けられる環境をつくるには、互いを思いやる気持ちが不可欠です。

まずは、市民の皆さんに病院の現状を知ってもらうことが大事。今まで以上に情報を発信していきたいと思っています。5月には「地域医療を考えるシンポジウム」も予定しています。

さらに、市民と医師が顔の見える関係になるために、市民の皆さんに「ボランティア」として病院にかかわっていただきたいのです。例えば、庭の手入れをしたり、歌や手品で患者を喜ばせたり、いろんな形でかかわってもらいながら、みんなの輪を築いていきたいです。

医師が集まる地域に

今は、大学の医局にお願いしても医師は来ません。地域ぐるみで医師を守り、育て、ここに医師が集まってくる環境をつくることが大切です。

そのためには、病院として魅力的な研修プログラムも必要ですし、地域で医師を育てる意識が大事です。頼んで来てもらうのでなく、医師が来たくなる地域を目指すのです。

地域医療再生のために必要なこと

伊関友伸

PLOFILE　いせき・ともとし
城西大経営学部准教授
1961年東京生まれ。東京大大学院法学政治学専攻修士課程修了（行政学）。1987年埼玉県庁入庁。2004年現職に。研究テーマは行政評価、自治体病院の経営、保健・医療・福祉マネジメント

医師という医療資源は泉と同じ
自分勝手に汲み上げ続ければ泉の水は枯れます

医師と住民の間の壁

医師不足は全国的に深刻な問題です。特に、地域医療を担う地方の自治体病院で医師不足が目立っています。

全国の医師不足の現状を見てみると、医師と住民の間にある意識の差が、大きな影響を与えているように感じます。医師の勤務状況は「昼間働きそのまま病院に泊まる。夜通し救患対応をして、翌日の昼間も仕事をする」連続32時間勤務が当たり前になっています。そんな過酷な状況を理解している住民は、意外に多くないのです。

軽症でも、深夜に救急外来で受診する「コンビニ受診」はその象徴。患者の多くはごく普通の人で、悪気もなく医療を受けています。また、医療現場に対して敬意を払わない行動をする人が増えており、その態度は悪化してきています。例えば、酒を飲んでの受診、医療従事者への暴力、タクシー代わりに救急車を使うなどの行為は、決して許されるものではありません。

住民は地域医療の当事者

自治体病院は「公」の病院です。地域の病院としてみんなで大事にすべきものです。しかし、「公」の病院がゆえに、誰もが自分勝手に振る舞ってしまう場所になっているように思えます。

わたしの嫌いな言葉の一つに、一部の人たちの「おれたちの税金で養ってやっている」という言葉があります。命を守るために、医療現場で献身的に働く医療スタッフに対し、礼を失した発言だと思います。自分の都合しか考えられない人たちのいる地域に、医師が定着するわけがありません。住民一人一人が医師の立場になって考えればわかることです。

医師不足問題は、地域社会の病理を浮かび上がらせる「試験紙」であるとわたしは思います。多くの地域で、住民は地域医療の「当事者」であるという意識を忘れています。病院にすべて「お任せ」で、現在起きている問題を本気で考えていません。批判はするけど行動はしない、そんな風潮が、地域から医師を立ち去らせる原因になっているように思えます。

医師は地域の財産

そのような中、住民が「当事者」意識を持って、医師を大切にしようという動きが各地で起きています。

兵庫県丹波市では「お医者さんを守ることが、子どもを守ることにつながる」と考えた母親らが、「県立柏原病院の小児科を守る会」を結成。子どもの病気について学び、休日や夜間における軽症での受診を慎む運動が展開されています。その結果、時間外の小児科の受診者数は大幅に減り、理念に賛同した小児科医3人が新たに勤務することになりました。

医師という医療資源は泉と同じです。勝手に汲み上げ続ければ、いつかは枯れます。地域医療の崩壊を防ぐには、すべての住民が「当事者」意識を持って、医師という地域の財産を守る行動をとることが最も重要でしょう。

病院開設以来、15 年以上も黒字経営を続ける国保藤沢町民病院
一時は２人まで減った内科医を、わずか３年で７人まで回復させた千葉県立東金病院。
その舞台裏のキーマンとなったのは NPO 法人地域医療を育てる会。
地域医療を存続させるために、わたしたちは何をすればいいのだろうか。
起死回生の突破口を先進事例から学ぶ。

病院のスタンス 1

国保藤沢町民病院

住民の声を医療に生かし強い信頼関係を築き上げる

岩手県南端にある藤沢町は人口九千の山あいの町。
この小さな町に、黒字経営を続ける病院がある。
その病院の名は国保藤沢町民病院。
全国から注目を集める同病院が取り組む
地域医療の最前線をリポートする。

健全な病院運営に住民参加は不可欠

「安定した病院運営を続けるには、大勢の患者がここに集まることと、町民が真の医療について理解を深め、自分たちの病院として支えてくれることが重要です」と開設以来の考えを語る佐藤元美院長。

平成7年度にスタートした「地域ナイトスクール」は、町民に情報を公開し、病院と町民とが情報を共有する場。介護保険制度や生活習慣病予防など、関心の高いテーマを寸劇などを通してわかりやすく解説しているほか、保健・医療・福祉のスタッフが町民とひざを交えて語り合っている。

「スクールを始めてから、病院に対するクレームが減りました。住民との温度差もなくなり、距離もぐっと近づいたような気がします」と佐藤院長は話す。

病院は、医療を受ける住民の視点から医療を見つめ直し、医療者の視点に偏りがちな運営やサービスを改善している。一方、住民にとっても病院の状況を知る貴重な機会であり、互いに地域医療について理解を深められる場になっている。

外来患者を診察する佐藤院長。患者の心に寄り添った診察がモットーだ

地域医療が果たす役割 藤沢町民病院が目指すもの

「長命と長寿は違います」と言う佐藤院長。「生物学的な延命を長命と呼ぶのに対して生きがいや喜びを見つけ、質の高い人生を送ることが長寿です。年をとっても、人の手を借りずに生活できる寿命を『健康寿命』と言いますが、この健康寿命を延ばすことが地域医療の究極の目的。従来の『病気を治す医療』に加え、『病気を予防する医療』を実践し、元気な人を増やして長寿社会を実現することが、わたしたちの使命です」と先を見すえている。

町民と病院の間で築かれた強い信頼関係

病院経営が難しい時代に、藤沢町民病院が黒字経営を続けてこれたのは、行政、病院、地域が一体となって病院を運営してきたからにほかならない。

地域医療の砦として、住民の命と健康と暮らしを守ってきた藤沢町民病院は、町民が全国に誇れる自慢の病院だ。開設から15年、町民と病院の間には、強い信頼関係が築かれている。

保健・医療・福祉のスタッフが地域に出向いて町民と情報を共有する「地域ナイトスクール」

国保藤沢町民病院
常勤医師 5 人、非常勤医師 3 人、病床数 54 床の町立病院。平成 18 年には全国自治体優良病院として最高賞の総務大臣賞を受賞。

岩手県藤沢町
面積 123.15㎢　人口 9,556 人
岩手県の南端に位置する緑豊かな農山村。町の西端を東北一の大河北上川が流れ、複合経営を中心とする農業が基幹産業。

Special Edition
菊川のカルテ
病院の処方箋
Chapter 3

起死回生の突破口 先進地に学ぶ

地域のスタンス 2

NPO法人 地域医療を育てる会

住民、行政や医療関係者が 知恵と力を出し合うことが重要

住民が地域医療を育てている市民団体がある。その名は「NPO法人地域医療を育てる会」。藤本晴枝理事長は、県主催のシンポジウムで病院から医師がいなくなることを知り、育てる会を立ち上げた。危機に瀕した地域医療を再生した舞台裏に迫る。

崩壊寸前の地域医療

「この地域の医療のために自分が何をできるか」そう考えた藤本さんが「育てる会」を立ち上げたのは17年4月。当時、千葉県山武（さんぶ）地域は医師不足が深刻化。県立東金病院の内科医は一時2人まで減り、地域医療は崩壊寸前だった。

医療センター構想のアドバイザーだった藤本さん。東金病院の平井愛山院長から「地域の力が必要。具体的なアクションを起こしてほしい」と相談を受ける。危機的状況の中で一歩踏み出した藤本さん。「地域医療の問題解決には住民、医療、福祉、行政など、さまざまな立場の人が、互いに知恵と力を出し合うことが重要。そのための対話の場がほしかった」と振り返る。会員は現在35人。医師、薬剤師、会社員や自営業など職業はさまざまだ。

情報発信と医師育成

同会は情報誌「クローバー」を毎月発行している。医師不足の背景など、山武地域の医療の現状を伝えることが目的だ。

東金病院が救急の「受け入れ拒否」問題で揺れた時も、「公平な見方が必要」と受け入れできなかった過酷な医療現場を同紙31号で住民に伝えた。

医師のコミュニケーション能力の向上を目指す「レジデント（新人医師）研修」も重要な活動の一つ。東金病院と連携したこの研修プログラムは、研修医が住民ボランティア「医師育成サポーター」に病気のしくみや予防法などを講話し、サポーターが声の大きさやわかりやすさなどを評価する画期的なシステムで、大きな反響を呼んだ。

「今までは月1回でしたが、4月からは月2回実施します」と藤本さんは自信をのぞかせる。

今は「病院が病気」

「今は『病院が病気』。だから、病院は、症状を住民に伝えればいいんです」

医療の現状は地域によって違う。住民活動も地域の数だけある。

「『育てる会のような活動はできない』とあきらめないで」と藤本さん。自らの経験をメッセージとして発信するため、全国各地を飛び回る。

「難しいことではありません。患者がいて、患者を治そうとする医師がいて、医師を大事にする地域なら、医師はきっといてくれます」と背中を押す。

PROFILE　藤本晴枝理事長
NPO法人「地域医療を育てる会」理事長。平成8年東京から東金市に移住。17年4月「地域医療を育てる会」設立。地域医療を守る先進事例を全国各地で講演。3児の母

絵本「くませんせいのSOS」
子どもたちに地域医療の問題を分かりやすく伝える教材になるようにと、藤本さんが描いた。今後は中学生向けの冊子も作りたいと考えている。

千葉県山武地域
住民、行政、医療関係者などの努力により東金病院の内科医は現在7人まで回復した。しかし東金市を含む千葉県山武地域の医師不足は依然深刻な状況が続く。

栗原勝男さん・幸江さん

わたしにとって菊川病院は、
「一番身近な救世主」かな。

医療の砦を守るために

Special Edition
菊川のカルテ
病院を守る
Chapter 4

日課は散歩とサイクリング

「散歩は毎朝6キロ。夕方からは自転車で12キロ走る」とこともなげに語る栗原勝男さん＝西富田＝。若々しい顔は70歳とは思えない。

妻幸江さん(66)と酪農を営んでいた勝男さん。以前から「会社員のように定年の区切りをつけよう」と考えていた。60歳を機に引退し、以後は「地域への恩返し」とボランティア活動を決意。民生委員として十年以上に渡り地域福祉を支えてきた。現在は市民生委員児童委員協議会会長として活躍している。

体をむしばむがんとの闘い

昨年からは、菊川病院の中期計画策定委員も務めている。「わが家は、みんな元気で医者にかかる

PLOFILE

栗原勝男・幸江

くりはら・かつお／くりはら・ゆきえ

勝男さんは家業の酪農を60歳で引退。その後10年以上民生委員を、昨年からは菊川病院の中期計画策定委員を務めている。昨年9月に胃がんが発覚。10月に菊川病院で手術を受けた。現在は元気に回復している。

＊災害時要援護者支援リスト
高齢者や障害者など災害時に特別な支援が必要な「要援護者」のリスト。

ことがなく、（病院は）縁遠かったですね」と言う。

そんな勝男さんに胃がんが見つかったのは昨年9月。民生委員の活動で「＊災害時要援護者支援リスト」を作成している最中だった。人間ドックで見つかり、菊川病院で精密検査を受けた。

「食欲もあるし、やせてもいなかったので、初期だと思い、あまり落ち込みませんでした。むしろ家族の方が心配していましたね」

気丈に振舞う勝男さんだったが、当時、菊川病院は、手術の予約がいっぱいで、医師から一時退院を指示された。

「おれはがんだぞ。なぜ、退院させる」

憤りを感じ、他の病院に移すよう訴えた。医師はゆっくり説明した。

「ほかに行けば、また検査をやり直すので、むしろ時間がかかります。ここにいてください。わたしたちが適切に処置します」

医師の言葉に落ち着きを取りもどした。

「中期計画の策定委員で病院と深くかかわっていましたが、扱いは他の患者さんと同じ。あきれるくらい公平な対応でした」と振り返る。

一週間ほど自宅で過ごし、10月に再入院。手術を受けて11月、無事退院した。

ここで手術して本当によかった

「最初の検査は内科医、手術は外科医が執刀しました。医師も看護師も、皆さんやさしく親切な対応をしてくれました」さらに「同じ時期に手術した人と外来でよく会いますが、皆さんとても元気です。菊川病院はすごいですね」とにっこり。

「医師も患者も知らない人ばかりの大きな病院より、忙しくても患者本意の医療を受けられる病院の方がいい。菊川の先生たちは患者との接点がしっかりできています。わたしはここで手術を受けて本当によかったと思っています」と力を込める。

かけがえのない菊川病院

今では、日課の散歩とサイクリングも以前のようにできるようになった。趣味のカラオケも、「昔より声に張りがある」と感じるほど体力も回復した。

勝男さんが身をもって感じたことは、自分の体を安心して診てもらえる病院が身近にあったこと。「菊川病院は、かけがえのない病院」と言い切る。そして、「普段の健康管理と検診の大切さをあらためて学びました。病気を予防できれば医療費の抑制につながるし、早期に治療すれば回復も早い。元気になった今、健康に暮らせることの喜びやありがたさを身をもって感じています」と強調する。

ボランティアで病院運営に協力

「献身的に対応してくれた菊川病院の医師や看護師の皆さんには、感謝の気持ちしかありません」と言う勝男さんと幸江さんに、これからの菊川病院に必要なことを聞いた。

勝男　わたしたち市民が病院にできることはボランティア。スタッフの負担を減らすことではないでしょうか。希望者を募れば協力する人はきっといるはずです。

幸江　病院も、もっと地域の会合などに積極的に参加して、ボランティアを募集するなど、協力を呼びかけてみたらいいと思います。まずは、地域に出掛けて対話することですね。お互いの顔が見えるようになれば、いろんな展開が期待できます。

勝男　わたしにとって菊川病院は、一言で言うと「一番身近な救世主」かな。

幸江　主人が元気になって、以前同様一緒に暮らせることが一番うれしいですね。

懸命にがんと闘った勝男さん。献身的に支えた幸江さん。二人のきずなは以前にも増して強くなった。菊川病院への信頼も深まった。

春を告げるやわらかな日差しの中、にっこり笑う勝男さんを、そばで見つめる幸江さんが印象的だった。二人が紡ぐ穏やかな時間はゆっくりと流れている。

このすごい病院を絶対なくしちゃならない。菊川の命の砦を守るために自分ができることから協力していきたい。

菊川の医療を守りたい
今度はわたしたち市民が救世主

20年以上活動を続ける病院ボランティア「星」

「おはようございます。何科を受診されますか」

午前8時30分、込み合う病院の玄関ロビーに明るい声が響く。声の主は小松明美さん（59）＝新道＝。病院ボランティア「星」の一員として、菊川病院の受け付け補助をしている。

「星」が活動を始めたのは平成元年。「朝の受け付けは込むので、患者さんと病院のお手伝いができれば」と元看護師や主婦たちが立ち上げた。現在会員は18人。交代で病院に通い、混雑がピークの8時30分から2時間程度活動している。

代表の杉山ときえさん（72）＝奥横地＝は「病院には本当にお世話になったから、そのお礼です」ときっかけを語る。さらに「菊川病院のお医者さんは本当によく頑張っていると思います。いつまでも地域の病院として存続してほしいです」とも。

「星」だけではない。プランターの花を整備してくれる小笠高校（内山佐多子校長、生徒700人）の生徒や敷地の草刈りをしてくれる市シルバー人材センター（早川諭理事長）の会員など、多くの人

All for One

や団体が病院の運営を支えている。

キーワードは住民参加 住民も参加する病院へ

病院経営が難しい時代に黒字を続けている岩手県の国保藤沢町民病院。一時は二人まで減った内科医を、わずか3年で7人まで回復させた千葉県立東金病院。全国から注目される二つの先進事例に共通するのは「住民参加」だ。両者が活発に交流することで、互いを知り、理解し合う。そこから生まれる信頼関係が地域の医療を支えている。

菊川市を含む中東遠地域は、医師や病床数が全国平均を大きく下回る医療過疎地。ただでさえもろい地域の医療を守っていくためには、病院の努力だけでは限界がある。地域が協働で、しかも本気で取り組まなければ病院は消えてしまう。まずは、住民が「自分の病院」として運営に参加する仕組みが急務だ。

ボランティアの活動が 住民と病院をつなげる

通常、住民が医師や看護師と接する機会は診療時。これだけで、良好な関係を築くことは難しい。

わたしたち住民ができることの一つに「ボランティア活動」がある。病院は治療の場だけでなく、入院している人にとっては生活の場でもある。きれいな環境、落ち着いた空間など快適な病院づくりは欠かせない。専門的な仕事でなければ、医療スタッフを手伝う作業もたくさんある。

多くの人が集まる病院は、コミュニティーと言っても過言ではない。医師、患者、ボランティアがつながることは、地域がつながることでもある。ボランティア活動は住民と病院のつなぎ役だ。

一番簡単で一番大切な「感謝の気持ち」を伝えること

開設以来、60年近くも命の砦として住民を守ってきた菊川病院。

取材を通し、医師が過酷な勤務を続けられる理由を探った。答えは、かけがえのない命を守りたい「使命感」。そして、その使命感を支えていたのはお金でもなければ名誉でもない、患者からの「ありがとう」だった。

菊川病院の医師や看護師は、わが身を顧みずわたしたちの「命」を守っている。「病院が病気」の時代、今度はわたしたちが病院を守らなければならない。医療スタッフを支えていかなければならない。

一人はみんなのために みんなは一人のために

病院開設以来、わたしたちは多くのことを病院に求めてきた。それに応えるために病院は、24時間365日、フル稼働してきた。一人（病院）はみんな（市民）のために、能力の限界まで走り続けてきた。

「ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワン」という言葉がある。一人はみんなのために、みんなは一人のためにという意味だ。一人（病院）が疲れきって倒れる前に、みんな（市民）が知恵と力を出し合えば、必ず元気な病院を取り戻すことができる。

今なら間に合う。わたしたちの命を守ってきた菊川病院の救世主は、この特集を読んでくれたあなただ。

特集　菊川のカルテ　完

【参考文献】▼平井愛山、秋山美紀　地域医療を守れ「わかしお ネットワーク」からの提案（岩波書店）▼伊関友伸　まちの病院がなくなる 地域医療の崩壊と再生（時事通信社）

【取材・協力】▼岩手県藤沢町　畠山浩▼静岡県川根本町　小笠原聡▼御前崎市　山崎良

ボランティア

菊川の医療を守るために 皆さんの力を貸してください

菊川病院は「病院ボランティア」に関する意見を募集しています。「こんな活動ならわたしにもできる」「こんな活動があればいいのでは」など、皆さんの前向きな意見やアイデアをお寄せください。

また、本誌特集「菊川のカルテ」に関する意見や感想もお知らせください。

■郵便の場合
〒439-0022
菊川市東横地1632
菊川市立総合病院経営企画室

■電話・ファクスの場合
☎35-2137　FAX 35-4484

■電子メールの場合
info@kikugawa-hosp.jp

イベント

菊川の医療を守るために シンポジウムを開催します

地域医療をより身近な問題として考えるための市民公開シンポジウムを開催します。

菊川の医療を守るためにできることは何か参加者全員で考えます。ぜひ参加してください。

これからの地域医療を考える
～築こう住民・行政・医療者の輪～
開催日時　5月30日㈯
午後1時～4時
会場　文化会館アエル大ホール

One for All, A

供用開始の図書縦覧を行います

公共下水道の供用を開始する日や区域図などの図書を縦覧します。この期間にご確認ください。

日時　３月16日（月）～30日（月）
午前８時15分～午後５時
※土･日曜日、祝日を除く

縦覧場所　本庁３階　都市計画課

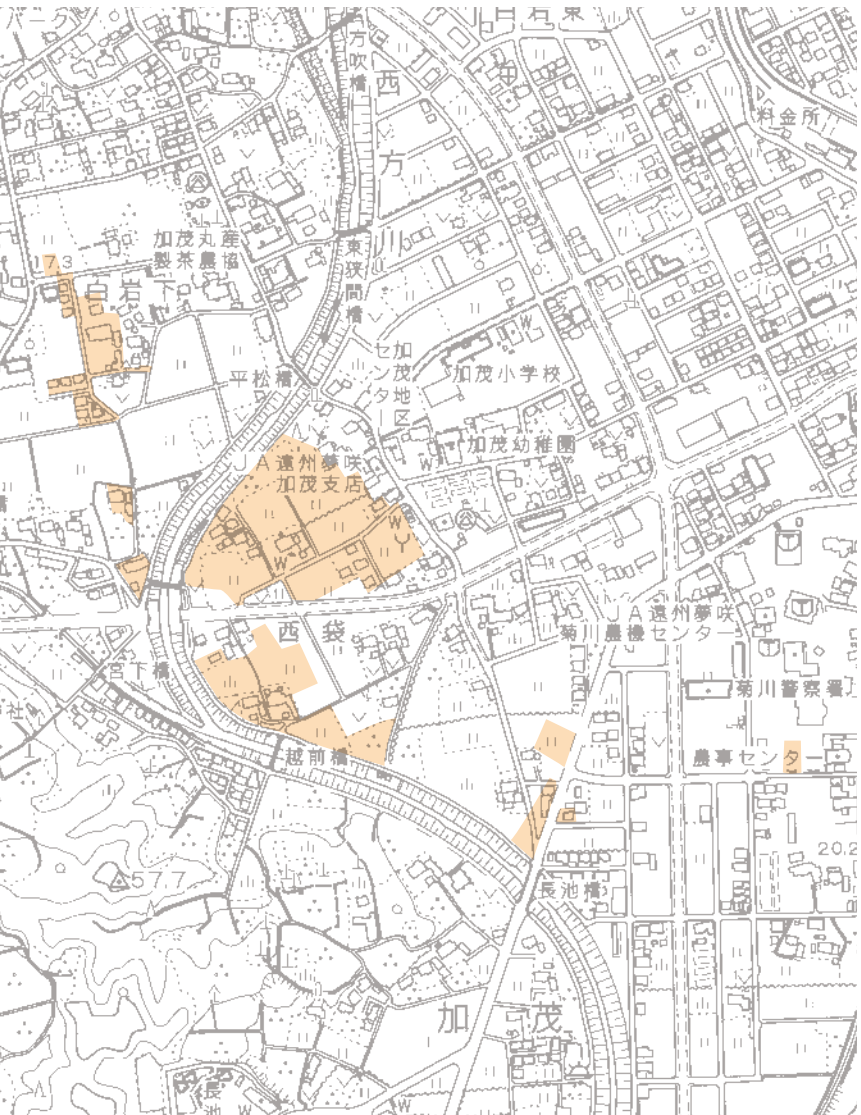
下水道は、きれいな水への帰り道です

下水道の接続にご協力を

工事期間中、交通規制などで大変ご迷惑をおかけしていますが、皆さんのご協力により、およそ21・５ヘクタールの区域で下水道が供用開始（利用可能）になる予定です。

今回の整備区域は図中▨の範囲（主に上本所自治会の一部や宮下自治会の一部、白岩下自治会の一部、西袋自治会の一部）です。皆さんのご協力をお願いします。

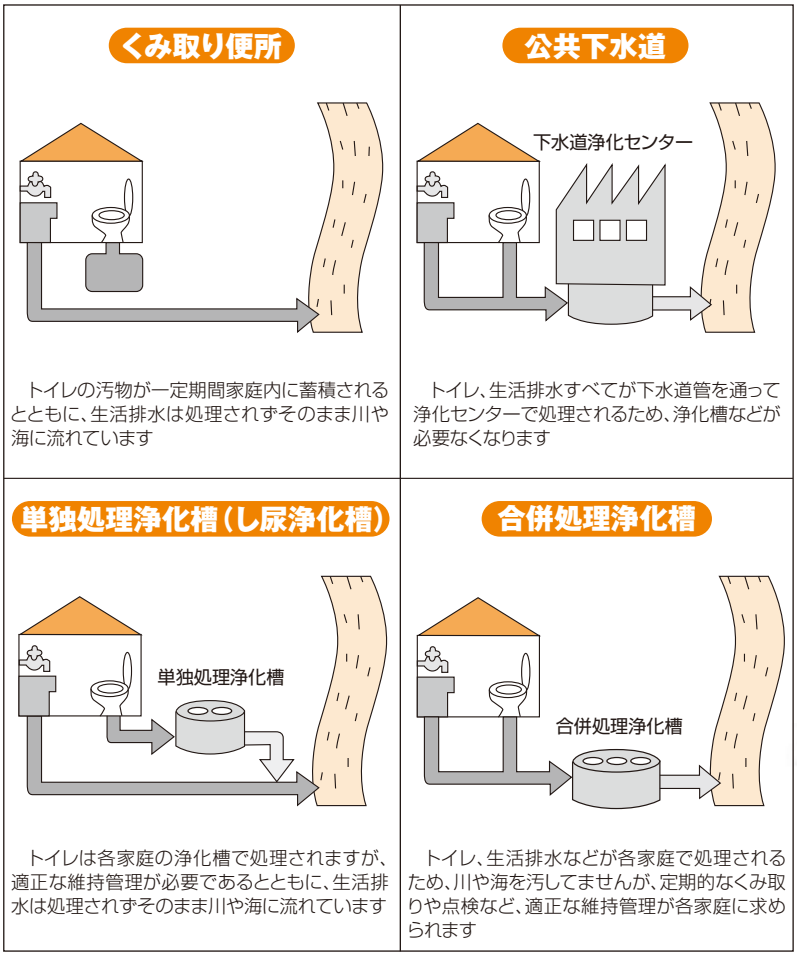
問合せ　都市計画課下水道庶務係（☎35-0933）



水の循環と下水道の役割

わたしたちの家で使われた生活排水は水路から川へ、そして海へと流れていきます。そのため汚した水をそのまま流していては、環境は悪化するばかりです。

皆さんのご家庭では、どのような方法で生活排水を処理しているのでしょうか。一般的には、おおよそ次の4つの方法（左図参照）で処理されています。汚れた水の行方を、少し調べてみましょう。



くみ取り便所や単独浄化槽では、トイレ以外の生活排水がそのまま流れ出ているため、住宅周辺の水路で悪臭がしたり、川や海の水質悪化の大きな原因になっています。下水道が整備された区域では、できるだけ早く下水道の切り替え工事を行うようお願いします。

切り替え工事は指定工事店で

下水道を利用できるようになった区域では、汚水を下水道に切り替えるための『排水設備工事』を、各家庭の負担で行うことになりますが、この工事は必ず市に登録された『排水設備指定工事店』に申し込んでください。

また、市では下水道の利用を促進するため工事費への補助や受益者負担金の減免制度などを設けていますので、お気軽にご相談ください。

受益者負担金

下水道施設の建設費の一部を負担していただくもので、公共マス1個につき20万円の負担金を、下水道に接続するときに納めていただきます。

下水道排水設備工事は指定工事店で

市の排水設備指定工事店に下記の営業所が加わりました。工事は必ず市に登録された「指定工事店」に申し込んでください。

▶新たに追加となった指定工事店

名称	住　所	電話番号
㈲トヨダパイピング	磐田市高見丘666-3	☎0538-38-3060
㈱フルカワ	御前崎市御前崎4401-8	☎0548-63-2263
宮村工業㈱	榛原郡吉田町神戸3192-3	☎0548-32-3817
伊藤設備	御前崎市比木433-2	☎86-5400
㈱メーワテック	浜松市西区志都呂町5556-3	☎053-448-1584

異物は流さないで

すでに下水道を利用している家庭では、台所や風呂、トイレなどの排水設備すべてが下水道の「入口」です。台所で油をそのまま流したり、便器にトイレットペーパー以外の物（ガム、たばこ、紙おむつなど）を流さないようお願いします。

グリーストラップなどは管理の徹底を

飲食店などではグリーストラップが設置されています。グリーストラップは油が下水道へ流入しないよう、定期的な清掃・点検が義務付けられています。管理をしないと、下水道管や浄化センターの施設に悪影響を与えるだけでなく、施設の復旧費用を負担していただくことになりますので、適正な管理をお願いします。

菊川市の下水道接続率

菊川市で下水道が使えるようになってから4年目。皆さんのご協力により、接続率（利用可能な家庭のうち、切り替え工事を行なった割合）は、1月末現在で76・5％になりました。

下水道は、皆さんに利用されて初めて効果が現れる施設です。早期接続にご協力をお願いします。

A Country Road

No.14　又野菜々子

菊川っ子の
国際貢献

Nanako Matano

一丁目出身
平成19年７月から日系社会ボランティアとして、南米ブラジルのヴィトリア市で日系日本語学校の教師を務めている。

言葉は人と人との関係を築くためのツールです

菊川市の皆さん、こんにちは。日系社会青年ボランティアとしてブラジルのヴィトリア市に派遣されている又野です。今、ブラジルは酷暑真っ盛りです。普段から暑いヴィトリアですが、最近はその暑さがさらに強くなっているような気がします。しかし暑さにも負けずに、近所の公園では今月末に迫ったカーニバルのための練習が行われていて、にぎやかな太鼓のリズムと歓声が家まで届きます。ブラジルで有名なカーニバルは、リオ・オリンダ・サルバドールの三大都市ですが、ヴィトリアでもカーニバルは行われます。ブラジルにいるからには、一度は参加してみたいカーニバルです。スリに気を付けて行ってこようかな、と計画しています。

1

今日はわたしの仕事について、お話させていただきます。日系日本語学校教師として派遣されたわたしは、ヴィトリア日本語モデル校で日本語教師をしています。この学校は、かつて日系人の子弟や日本企業の駐在員の子弟のための日本人学校でしたが、20年ほど前に日本語学校として、地域の非日系人にも日本語を教える場となりました。柔道や剣道を習っている延長で日本語を習い始めた人、日本文化（特にマンガやアニメ）に興味がある人、そして日本への留学を希望している人など、動機はさまざまですが、皆さん日本語に興味を持って勉強しています。

2

日本語は文字が独特（ひらがなとカタカナ）で、彼らにはそれが絵のように見えるそうです。また、一つ一つに意味がある漢字も魅力的だといいます。しかし、曲線の文字であるアルファベットに慣れているので、真っ直ぐな線が書けなくて、どうしても丸っこい可愛い字になってしまうのが微笑ましいです。

会話がある程度できるようになってくると、だんだん『文化の差による間違い』が出てきます。例えばお菓子を示して、「あなたはこれがほしいですか」と聞いてきます。意味は伝わりますし、文法上おかしいこともありません。ですが、これを実際に言われたらどうでしょうか。不自然だと感じますよね。ちょっと失礼だとも思われるかもしれません。ではどうしておかしいのか、どう言うべきなのか、分かりやすく説明しなければなりません。これがとても難しいです。しかし、ここで訂正しておかなければ、実際に日本で会話をするときにトラブルを起こしてしまうでしょう。言葉は人と人との関係を築くためのツールですから、トラブルの元になるなんて絶対に駄目だと思って、よりよい教え方を考えています。マンガなどで仕入れた日本語をうれしそうに披露してくれる生徒もいるのですが、それは乱暴な言葉だから駄目です、と釘をさすことも多いです。

わたしも彼らの言葉で日本語の面白さ・不思議さに気付くことがあります。わたしは日本語を教えて、彼らはわたしにポルトガル語を教えてくれて、ときには珍回答も飛び出して、毎日楽しく授業をしています。

1.　日系日本語学校のマスカレニャス・デ・モライス校での授業風景

2.「こどもの日」にちなんだ折り紙交流会で児童と一緒に記念撮影

わがまちの環境は今!!

第12回

引き続きごみ減量、分別の徹底にご協力をお願いします

各自治会への「ごみ減量説明会－ごみを減らす暮らし－」に、多くの皆さんの出席ありがとうございました。

説明会で、皆さんにごみの減量や分別の徹底、「３つのＲ・リデュース（ごみになる量を減らす）・リユース（ごみにしないで再利用する）・リサイクル（資源や原材料として再利用する）」の推進をお願いしたところ、環境資源ギャラリーへの搬入量は前年度に比べ、減少しています。

環境資源ギャラリーへの搬入量（総排出ごみ量）

平成20年度12月　6,957.2t

前年度同月比　107.7ｔ減（1.52%減）

これは、市民一人一人が日ごろからごみ減量に感心を持ち、積極的に３Ｒの行動をしている結果です。しかし、まだまだステーションに出されるごみ袋の中に、紙類などリサイクルできるものが混入されています。

そのため、古紙類の受け取りを３月１日から環境保全センターに加えて、赤土リサイクルステーションでも、開始しましたので、ぜひ利用してください。

また、ごみ袋に捨てる前にリサイクルに出せるものかどうか一度確認し、リサイクルできるものはリサイクルに出してください。その少しの行動で、家庭から出るごみの量を減らすことができるのです。

リサイクル品の無料受け取りについて

■環境保全センター（三沢・棚草）

受取時間　平日、土・日曜日　午前９時～正午

※祝日、年末年始は除く。

受け取るもの　新聞紙、雑誌、ダンボール、雑がみ（お菓子箱・ティッシュの箱など）、牛乳パック、アルミ缶、スチール缶、蛍光管、水銀入り温度計・体温計

問合せ　環境保全センター（☎35-2065）

■赤土リサイクルステーション（赤土）

受取時間　午前８時～午後５時

※365日受け取り可能

受け取るもの　びん、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、プラスチック製容器包装、白色トレイ

▶３月から下記の受取品目を追加しました

新聞紙、雑誌、ダンボール、雑がみ

問合せ　環境推進課環境推進係（☎35-0916）

広報クイズ

菊川病院は何年に開院したでしょうか？

正解者の中から１人に「アロエ麺セット」が当ります。

提供：南風園　協力：市観光協会

ハガキに、答えとあなたの住所・氏名・年齢・電話番号と身近な出来事や広報を読んで感じたことなどがありましたら、書き添えて企画政策課までお送りください。

●あて先

〒439-8650　菊川市堀之内61番地

菊川市役所企画政策課　まで

●締め切り

平成21年３月27日(金)の消印まで有効

地震防災掲示板 File11

家族で話し合いを！

大規模地震は、いつどこで起こるか分かりません。特に、家族がバラバラになってしまう可能性の高い平日の昼間の行動など、地震が起きる前に家族で話し合いをしておくことが大切です。会社や学校、家など自宅以外の場所での避難方法や家族の集合場所（自治会の公民館、公会堂など）をあらかじめ決めておきましょう。

災害発生後は、電話がつながりにくい状態になることが予想されます。その場合は、ＮＴＴの「災害用伝言ダイヤル（171）」を使って、自分の安否情報を登録すると、家族はその安否を確認することができます。電話で171をダイヤルし、音声に従って伝言の録音や再生を行うことができます。毎月１日には災害用伝言ダイヤル（171）の模擬体験ができるので、利用してみるとよいでしょう。災害が発生してからは、あわてずに落ち着いた行動をとることが求められます。もう一度家族で話し合いをし、災害に備えましょう。

問合せ　安全課防災係（☎35-0923）

１月号の広報クイズには12人の応募があり、全員正解。　答えは「平成21年１月25日」でした。

みんなの広場

「ふるさと給食」を実施

生産者と児童が一緒に給食

1月27日、小笠東小学校で、生産者と児童たちが交流を深める「ふるさと給食」が開かれました。芽キャベツを生産している森下兼雄（かねお）さんが同校を訪れ、5年2組の児童25人と一緒に給食を楽しみました。

はじめに、森下さんが芽キャベツの実物を使って特徴を説明。その後、児童と森下さんは芽キャベツ入りのクリーム煮など、地元の食材を使った給食をおいしくいただきました。

森下さん（右上）を囲んで給食を楽しむ児童たち

第4回書初展が開催

全2250点の力作が並びました

1月31日と2月1日の両日、第4回書初展が市民総合体育館で行われました。園児から高校生・一般の幅広い年代から集まった全2250点を展示。「ひので」や「もちつき」など新春にちなんだ題目を力強く書き上げた作品が並び、訪れた家族連れなどを楽しませました。

2月1日には、特別賞に選ばれた60点の表彰式も行われました。特別賞に輝いた作品は、3日から15日まで中央公民館でも展示されました。

素晴らしい作品が並びました

長屋門フェスタ2009

満開の梅とお祭りを楽しむ

2月1日、国指定重要文化財「黒田家代官屋敷」で長屋門フェスタが開催されました。これは3月1日まで無料開放されている黒田家代官屋敷の梅祭りに合わせたイベント。初日となったこの日は1500人が訪れました。

長屋門前のステージでは、節分の豆まきや地元の14団体によるさまざまな芸能アトラクションが披露されました。また、梅園には13種類180本の梅が満開に咲き誇り、訪れた人たちは梅の香りと地元のお祭りを楽しんでいました。

豆まきで長屋門フェスタが開幕

Photo -KIKUGAWA- NEWS

2/1 節分まつりが開催されました

第20回町部地区節分まつりが堀之内体育館で開催され、およそ300人が参加。じゃんけんゲームや豆まき、もち投げなどで参加者たちは楽しみました。

2/8 市民による楽しいステージ

第14回グリーンガーデンコンサートが開催され、市内の保育園や小・中学校など15団体が参加。吹奏楽やダンスなど、楽しいステージを繰り広げました。

2/12 高校総体・国体出場を報告

第58回全国高等学校スキー大会及び第64回国民体育大会冬季大会スキー競技会に、田力武将（たぢからたけまさ）さん（小笠高2年）が出場しました。

2/18・24 将来を見据えた資金術を伝授

男女共同参画推進講座が開催され、市内から計35人が参加。ファイナンシャルプランナーの安藤絵理（えり）さんを講師に招き、子育てや老後の資金術などの講話がされました。

2/23 働きやすい経営環境を構築

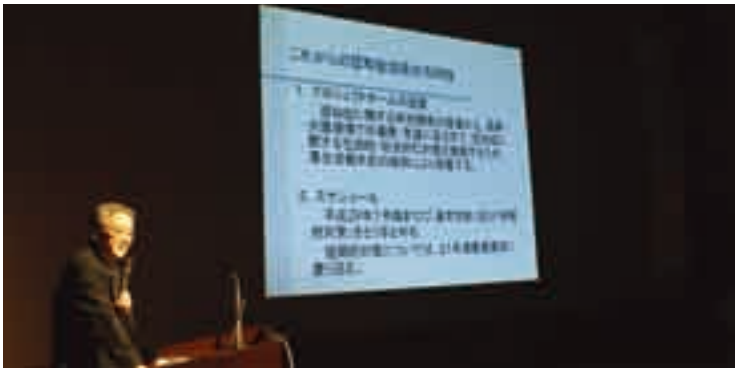
農業経営者が、働きやすい経営環境を目指す家族経営協定の締結式が行われました。ファーミングプランの会の家族6組が調印しました。

認知症高齢者を支援

認知症への理解を深めよう

2月1日、中央公民館で認知症高齢者地域支援ネットワーク推進事業「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」が開かれ、医療や福祉・介護従事者などおよそ110人が参加しました。

はじめに、市立総合病院の原田正美（まさみ）さんが今後の認知症施策の方向性や認知症医療の現状を報告。後半はパネルディスカッションが行われ、参加者たちは認知症への理解を深めました。



基調講演をする市立総合病院医療福祉支援課長の原田正美さん

ガレットパーティを開催

菊川ガレットを名物料理に

2月9日と10日の両日、市役所で市内の飲食業者などを招いた「ガレットパーティ」が開催され、計13店舗から23人が参加しました。

参加者たちは今年10月に開催される国民文化祭で発表するガレット※を味わいました。その後、さまざまな食材を具に入れた試食が行われました。食のプロたちが意見交換をし、菊川名物に向けたガレットの改良が行われました。

さまざまな食材で試食をかさねる参加者たち

※**ガレット**：フランスブルターニュ地方の郷土料理。そば粉を使った生地にさまざまな食材を包んで食べる。現在、生地にお茶を混ぜたり、地場産品をふんだんに使用した「きくがわガレット」を研究中。

海外で活躍するボランティア

JICA「体験談＆説明会」開催

国際協力機構（ＪＩＣＡ）は、世界の開発途上国で現地の人々と同じ生活をしながら、共に働き国づくりに貢献するボランティア（青年海外協力隊・シニア海外ボランティア）を募集しています。

下記の日程で「体験談＆説明会」を開催します。

日程	時間	会場
4月11日（土）	午後2時～	多文化共生センター（浜松市中区砂山町）
4月17日（金）	午後6時30分～	男女共同参画センターあざれあ（静岡市駿河区馬渕）
4月25日（土）	午後2時～	三島市文化会館（三島市一番町）
4月26日（日）	午後2時～	男女共同参画センターあざれあ（静岡市駿河区馬渕）

申込・問合せ　ＪＩＣＡ中部センター（☎052-702-1391 http://jica.go.jp）

富士山静岡空港開港を記念

地元感謝デーを開催します

富士山静岡空港建設へのご協力に対する感謝の意を込めて、地元感謝デーを開催します。

※自家用車（二輪車を除く）での来場はできません。

日時　３月20日（金）
午前10時～午後４時

会場　富士山静岡空港

内容　ステージイベント、PR・飲食ブース、滑走路一部開放など

来場方法　シャトルバスまたは金谷駅からウォーキングコース（片道約４キロ）の案内がありますので、ご利用ください。

●シャトルバスのご案内

発着地　菊川市役所本庁舎前
中央公民館

運行時間　午前８時30分から
（およそ20分間隔で運行）

※発着地の駐車場には限りがあります。

問合せ　商工観光課工業企業立地係（☎35-0936）、県空港部総務室（☎054-221-3228）

ふるさと菊川を守る消防団員

平成21年度市消防団入退団式

日時　４月５日（日）
開式：午前９時

会場　市民総合体育館

問合せ　市消防本部消防総務課消防団係（☎35-3282）

家族みんなでお出掛けください

「子ども映画会」を開催します

日時　３月31日（火）
午後１時30分～

会場　小笠児童館

内容　「ドラえもん」ほかアニメ

※申込不要、直接会場へ

問合せ　小笠児童館（☎73-5698）

その他

犬・猫の飼い主の皆さんへ

引取場所が変更になります

現在、実施している飼い主からの犬・猫の引取場所が変更になります。これまで、市役所本庁南側で実施していましたが、４月から西部健康福祉センター掛川支所（掛川市金城）になりますので、ご注意ください。なお、飼い主のいない犬・猫は今までどおり市役所本庁南側で引き取りを行います。

問合せ　西部保健所衛生薬務課
（☎0538-37-2245）

固定資産に関する資料の縦覧・閲覧ができます

４月１日（水）から土地と家屋の「価格等縦覧帳簿」の縦覧と「固定資産課税台帳」の閲覧を行います。登録されている内容を来庁のうえ、お確かめください。

期間　４月１日（水）～６月１日（月）午前８時15分～午後５時
※土・日曜日と祝日は除く

●土地及び家屋価格等縦覧帳簿による縦覧

固定資産税の納税者は、縦覧帳簿で納税している土地や家屋と、市内にあるほかの土地や家屋の評価額とを比較することができます。

縦覧場所　本庁税務課

対象　土地または家屋の納税者及び同一世帯の家族

※土地・家屋とも所有者の氏名や住所は記載されていません。代理人は対象者の委任状が必要です。

●固定資産課税台帳の閲覧

固定資産課税台帳を確認することができます。

閲覧場所　本庁税務課または小笠支所市民福祉課

対象　その土地または家屋の所有者及び同一世帯の家族、納税管理人、借地・借家人など

※代理人は対象者の委任状が必要です。

問合せ　税務課資産税係（☎35-0913）

表紙をリニューアルしました

今まで以上に多くの人に読まれ、親しまれる「広報きくがわ」を目指して本号から表紙をリニューアルしました。

今後もより充実した広報紙づくりに努めてまいります。

問合せ　企画政策課秘書情報係（☎35-0924）

お詫び：３月のお知らせ号６ページの『市民カレンダー』「20日（金）0･1･2歳おはなし会」は実施されません。お詫びし訂正させていただきます。

お知らせ掲示板

募集

臨時職員雇用希望の皆さんへ
臨時職員の登録を受付します

市役所が行う業務の一時的な増加に対応するため、臨時職員などを雇用することがあります。その雇用を円滑・迅速に行うとともに、雇用機会の拡大を図るため登録の受け付けをします。登録した人には、臨時職員などの補充が必要になったときに相談のうえ勤務をお願いすることになります。

職種　一般事務、保育園・幼稚園の補助員、給食調理員、放課後児童クラブ指導員など

申込・問合せ　市販の履歴書に記入のうえ、総務課人事研修係（☎35-0921）へ

一緒に空手を楽しみませんか
空手道教室生徒を募集します

日時　５月から６月の毎週水曜日と金曜日　午後７時15分～８時30分（全16回）

会場　小笠高校武道場・市民総合体育館・西方空手道場

対象　小学生以上の男女

参加料　2,000円（初日に集金）

申込・問合せ　４月30日（木）までに市体育協会事務局（市民総合体育館内☎73-0115）へ

奉仕活動に興味のある皆さん
赤十字奉仕団員を募集します

奉仕活動をとおして地域との輪を広げてみませんか。興味のある人をお待ちしています。

主な活動　献血ＰＲ、自主防災訓練の参加、高齢者施設奉仕活動、社会福祉施設奉仕活動、視察研修など

※男女問いません。

申込・問合せ　赤十字奉仕団 委員長 山口（☎36-4065）、副委員長 斉能（☎73-2145）

市営住宅に入居希望する人へ
平成21年度入居待機者を募集

募集団地　①上本所団地　②長池団地　③赤土団地

※現在すぐに住める空家があるということでなく、公開抽選により待機者の順位を決定するものです（待機者の有効期限：平成22年３月31日）。

応募資格

次の条件をすべて満たす人

- 現在、同居または同居しようとする親族がある人（60歳以上の人などは単身でも可）
- 市内在住または在勤者
- 現在、住宅に困窮していることが明らかな人
- 国税や地方税を滞納していない人
- 近隣市町内に２人の連帯保証人のいる人（入居者と同等以上の収入を有する保証能力のある人）
- 所得が月額15万8,000円以下の人
- 自治会活動に参加できる人
- 申込者および同居親族が暴力団員でない人

受付期間　４月６日(月)～10日(金)

抽選日時　４月17日(金)午前10時

抽選会場　市役所本庁201・202会議室

申込・問合せ　施設管理課管財係（北館内☎35-0919）

防衛省職員採用試験を実施
予備自衛官補を募集します

職種　予備自衛官補

試験日　４月19日(日)～21日(火)

応募期限　４月14日（火）

応募資格

一般：18歳以上34歳未満

技能：18歳以上で国家免許資格などを有する人

申込・問合せ　詳しくは自衛隊静岡地方協力本部募集課（☎054-261-3151）

国家公務員を目指す皆さんへ
国家公務員採用試験のご案内

人事院は平成21年度中に次の採用試験を行います。受験案内や申込書は郵便でも請求できます。

受付期間

- Ⅰ種　４月１日(水)～８日(水)
- Ⅱ種　インターネット：４月11日（土）～15日（水）　郵送･持参：４月13日（月）～22日（水）
- Ⅲ種　６月23日(火)～30日(火)

受験案内などの配布開始日

- Ⅰ種・Ⅱ種　配布開始済
- Ⅲ種　５月11日（月）

申込・問合せ　人事院中部事務局（☎052-961-6838 http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm）

催し

健康のためにウォーキング
「地元を歩こう会」を開催

市では、地区センターや構造改善センター、公民館を中心にウォーキングコースが設定されています。このコース（４～５km）を月に１回、健康のために歩いてみませんか。

日程

日程	集合場所
４月１日（水）	町部地区センター
５月１日（金）	嶺田構造改善センター
６月１日（月）	河城地区センター
７月１日（水）	河東構造改善センター
９月１日（火）	内田地区センター
10月１日（木）	ひらかわ会館
11月２日（火）	横地地区センター
12月１日（火）	布引原北公民館
平成22年１月４日(月)	プラザけやき南側駐車場
平成22年２月１日(月)	小笠保健センター
平成22年３月１日(月)	加茂地区センター

持ち物　水筒・帽子・タオル・参加カード・雨具（必要に応じて）

※参加カードは、初回に参加した際にお渡しします。次回以降、ご持参ください。

※申込不要。午前９時までに歩きやすい服装で集合場所に来てください。

問合せ　地元を歩こう会 会長 伊藤（☎35-3219）

お詫び：３月のお知らせ号６ページの『健康カレンダー』「17日（火）に実施する１歳６か月児健診の対象」に誤りがありました。正しくは、「小笠地域の平成19年７・８月生」です。お詫びし訂正させていただきます。

広報きくがわ
No. 090
平成21年3月号

２年ぶりの公演で力いっぱいの演技を披露

地域住民によるミュージカル
「STAGE21」が公演開催

２月14日と15日の両日、ミュージカルシアター「STAGE21」が文化会館アエルで公演を開催しました。２日間で計１０００人が訪れ、手作りのステージを楽しみました。

２年ぶりとなる今回の公演は「ジュウシチネンゼミ」と題し、17年に一度しか現れないセミをめぐるファンタジー。市内外の小学生から50代までの35人の団員が脚本から創りあげた感動のステージに、詰め掛けた観客からたくさんの拍手がおくられました。

菊川の素晴らしさを再発見
市みどころフォトコンテスト

２月18日、中央公民館で第２回市みどころフォトコンテストの表彰式が行われました。グランプリをはじめ各賞の受賞者が出席し、表彰を受けました。

コンテストには全１７５作品の応募があり、その中からグランプリなど19作品が入賞しました。グランプリに輝いたのは、牧野光伸（みつのぶ）さん（浜松市）。画題は「丹野池公園の春」。桜のピンク色と水面の水色で、春の丹野池を絶妙なバランスで表現された作品です。

全作品の展示は、中央公民館で３月16日まで行われています。

受賞作品の前で記念撮影する牧野さん
グランプリ受賞作品（左下）

かわいらしいお内裏さまとおひなさま

ひと足早いひな祭りを満喫
おひなさまごっこを楽しむ

２月25日、きくがわ子育て支援センターで「ふたごちゃん、こんにちは!!」が開催されました。市内外の双子の未就園児親子５組が参加し、おひなさまごっこでひと足早いひな祭りを楽しみました。

はじめに、お母さんたちが色紙で扇子やしゃく、えぼしなどを工作。完成すると、子どもたちは色ビニールで作った十二単や袴（はかま）を身にまとい、段ボール製の屏風（びょうぶ）の前で親子一緒に記念撮影をしました。男の子も女の子もお内裏さまとおひなさまの気分を満喫し、笑顔を見せていました。

平成21年3月5日発行
発行・編集／菊川市役所企画政策課
〒439-8650　菊川市堀之内61番地
電話／0537-35-0924

この広報紙は環境に配慮し、再生紙と大豆油インキを利用しています。

菊川市のホームページアドレス　http://www.city.kikugawa.shizuoka.jp/